

The local wisdom in marine resource conservation for strategies of poverty reduction in Indonesia

学位名	博士（海洋科学）
学位授与機関	東京海洋大学
学位授与年度	2018
学位授与番号	12614博乙第35号
権利	全文公表年月日：2019-06-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00001758/

[論文博士] (博士論文審査及び学力の確認の結果要旨)

申請者氏名 : Zamzami Lucky

博士論文題目 : The local wisdom in marine resource conservation for strategies of poverty reduction in Indonesia (インドネシアにおける貧困軽減戦略のための海洋資源保全についての地元知識)

博士論文審査 :

申請者から提出された博士論文について、公開発表会が平成 31 年 2 月 14 日に行われ、審査委員と申請者の間で質疑応答が繰り返しなされ、本論文は博士論文としての質を十分に確保しているとの結論にいたった。本研究は、海洋人類学の手法による東南アジア漁村の民族誌研究である。調査研究の対象となったのは、インドネシア共和国西スマトラ州アガム県タンジュン・ムティアラ郡南ティク村である。本論文ではまず、当該漁村の主たる構成民族であるミナンカバウ族の概要、その村落構造と社会構造の分析が行われた後で、西スマトラ州の漁業の概要とフィールド域における海洋資源の保全が詳述されている。そして、貧困軽減戦略という脈絡の中で使用される地元知識について、精神的上部構造、持続可能な環境保全、伝統文化、経済的下部構造の 4 視点からの整理が行われている。

これらの成果は、基礎的な民族誌という点で優れており、東南アジアの漁村研究の分野のみならず、海洋人類学の発展にも大きく貢献する優れた研究といえる。しかしながら、本論文には弱点もある。植民地時代の文献を使用し、当該社会の動態に言及しているが、すべて 2 次資料である。ミナンカバウ族漁村に関するオランダ語の 1 次史料をさらに参照すれば、さらに具体的な歴史背景が明らかにされる可能性がある。しかし、こうした弱点は本論文の価値を毀損するものではなく、今後の課題であるともいえる。

以上の内容から、申請者から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、および応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

学力の確認の結果要旨 :

学力の確認は、平成 31 年 2 月 14 日に行われた。審査委員一同出席の下、申請者に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。5 年以上の研究歴を有し、学術論文は 12 編が単著として公表済みであることを確認した。そのうち 1 編は英語で書かれており、かつ、国際会議における英語による発表もあり、英語の学力については問題ないと判断した。

以上から、申請者について博士論文審査、学力の確認ともに合格と判定した。